

白石市立小中学校のあり方に関する基本方針（案）の説明会 開催状況

合計42回開催（令和8年7月27日現在）

- 議会への説明会 : 1回
- 校長会への説明会 : 2回
- 小中学生への説明会 : 14回
- 高校生への説明会 : 2回

- 幼稚園・保育園保護者説明会 : 3回（日中3回）
- 小中学校保護者説明会 : 9回（日中1回/夜間8回）
- 住民説明会 : 11回（日中9回/夜間2回）

保護者・住民説明会での主な質問

◆「教育環境・学校のあり方に関すること」

Q. 再編前と再編後の子どもたちへのサポートについて具体的にどのように考えているのか。

A. 案が取れたら、速やかに再編準備委員会を設置し検討を進めるとともに、再編する学校間において再編前から継続的な交流を進め、相互理解と関係性を深めながら段階的に進める予定です。

その際、子どもたちの様子も見ながら、新しい仲間になんて慣れるための交流機会を設けます。

チーム担任制を継続し、複数の教職員の目で子どもたちを見守るとともにスクールカウンセラーを配置するなど、学校全体で子どもが気軽に相談できる環境整備に努めます。あわせて、再編後の学校において、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、学校とも連携しながら指導体制の構築に努めます。

Q. 義務教育学校について、メリットとデメリットは何か。

A. 【メリット】

- ・小中の段差をなくすことで、中一ギャップの一つである不登校急増の課題を解消できることが見通せる。
- ・異なる年代の児童生徒が共に生活することにより、縦のつながりが強まり、豊かな心の育成が期待される。

【デメリット】

- ・6年生のリーダーシップが育ちにくい。
- ・小学校の卒業式、入学式がなく成長を感じる機会の減少
⇒縦割り活動・委員会活動・行事での役割付与により補完。5～4制や4～3～2制の区切りでリーダー的な役割を持たせることにより成長実感の機会（1/2成人式、立志式など）を設けるなど工夫。

Q. 答申の中で「小中一貫小規模校」とされているが、なぜ「小規模」なのか。

A. 小規模校を希望する子どもや保護者が一定数いると認識しています。子どもたちの多様なニーズを可能な限り受け止め、クラス替えのできる義務教育学校とは異なる小規模の学校を用意し、学校を選択できるシステムを整備します。

◆「スケジュール・段階的再編に関すること」

Q. 保護者、地域、学校関係者との合意形成とあるが、基本方針の決定はいつ頃になるのか。また、その周知方法について教えてほしい。

A. 保護者、子どもたち、地域の方々からいただいた意見も踏まえ、今年中には基本方針（案）から案を取って基本方針とする予定です。教育委員会、総合教育会議など必要な手続きを行った上で、決定後は議会、マスコミ、広報、HP等で公表します。学校再編は、今後のまちづくりに大きく関わりを持つことから、公表後は、保護者や市民の皆さまに説明する場を設け、速やかに再編準備委員会を設置したいと考えています。

Q. 義務教育学校や小中一貫小規模校は令和16年度開校予定となっているが、福岡小学校など段階的な再編スケジュール表に記載のない学校はどのような位置付けになるのか。

A. 段階的な再編スケジュール表に記載のない学校（福小、東中）については、最終的に令和16年度に開校する義務教育学校と小中一貫小規模校への再編を予定しています。

Q. 基本方針(案)の通りにいくと、自分の子どもが中学3年生になるタイミングで別の中学校と再編することになるが、あらかじめ再編することが分かっているのであれば、最初から再編先の学校へ入学することは認められないのか。

A. 本市では、法令・規則に基づき住んでいる地区で通学する学校が指定されます。また、「白石市指定学校変更事務取扱要綱」(※)に基づき、指定された学校に希望する部活動がないなど、教育委員会が定める特定の理由による指定校変更は認めていますが、学校再編を理由とした入学前の指定校変更は現時点で認めていません。

(※) 白石市指定学校変更事務取扱要綱第2条 (①心身障害/②転居/③家庭の事情/④通学等/⑤教育的理由)

◆「学校選択に関すること」

Q. 人数の多い学校ではなく、小規模校で学ぶことを希望する子どもや保護者のニーズに応えることは可能か。

A. 義務教育学校が新設される令和16年度には、学区を撤廃し、義務教育学校と小中一貫小規模校を希望に応じて選択可能にする予定です。

Q. 再編後は「子供や保護者の希望に応じて学校を選べる」とされているが、小中一貫小規模校に希望者が集中した場合の対策はあるのか。

A. 小規模校を希望する子どもや保護者が一定数いるが、基本的に標準規模の学校を希望する子どもや保護者が多いと認識しています。想定する小中一貫小規模校は1クラス10名程度を想定していますが、10名を超えたからといって入学できないわけではありません。

◆「施設跡地利用に関すること」

Q. 各校が段階的に再編を進めていくことにより、それぞれの学校の校舎・体育館・校庭等を使わなくなると思うが、現時点で跡地の利用見通しがあれば、教えてほしい。

A. 基本方針策定後、防災や地域活動の場という観点を含め、地域の方々と協議し、意見をいただきながら、跡地の活用方法について、検討していく予定です。

◆「その他」

Q. 義務教育学校を新設する設置場所として白石第一小学校及びその周辺としている理由について伺いたい。

A. ①白石第一小学校や図書館の周辺は、これまでの地震風水害などの災害においても大きな被害を受けておらず、防災拠点として安全性が高い。

②地盤調査において極めて強固な地盤であるとの結果が出ており、長期的な建物の安全性が高い。

③新たに市有地を取得する場合、多額の用地取得費・造成費が見込まれることから可能な限り既存の市有地の活用を考えている。

④白石第一小学校周辺の土地を一体的に活用することで、義務教育学校を整備するために必要な面積を市有地として確保できる。といったことから選定しています。

Q. 放課後児童クラブと児童館については、今後どうなるのか。

A. 放課後児童クラブと児童館は別事業ですが、第一、第二児童館の建物を利用している状況です。放課後児童クラブ、児童館については、再編準備委員会を通じて今後地域の人とあり方を協議していきます。再編で通う学校は変わっても子どもたちの居住地域は簡単には変わらないため、学校が再編されて無くなっても放課後児童クラブや児童館をすぐに無くすということは考えていません。地域の人と、子どもの数などのニーズを考えながら検討を進めます。

Q. 地球共創大学院大学との連携を視野に入れた教育環境の充実とあるが、どのような大学なのか。

A. 旧白川中学校を活用して、令和10年4月の開校を目指して準備を進められている大学です。「地球共創学」という新しい学問で、地球規模の環境問題と地域社会の課題解決を両立させる「共創的人材」の育成をめざすというものです。小中学校との連携については、教育委員会と大学を準備している法人の方と協議を進めている段階です。

保護者・住民説明会での主な要望（意見）

◆「スケジュール・段階的再編に関すること」

- ・再編により転校することが分かっているのであれば、最初から統合先の学校へ入学することを認めてほしい。
- ・子どもたちの将来のことを考えると、学校再編はやむを得ないと感じた。子どもたちのためにスピード感をもって進めてほしい。
- ・最後まで児童、保護者に寄り添い在校生の卒業を待ってからの閉校にしてほしい。
- ・早い段階から、再編校間の交流活動を進めて欲しい。

◆「通学方法・通学路に関すること」

- ・通学手段について保護者にとっても子どもにとっても不安に感じている。通学手段としてスクールバスを準備してもらいたい。
- ・白石第一小学校に義務教育学校を新設した際、周辺の交通状況や駐車場の不足等が懸念される。【意見】

◆「部活動に関すること」

- ・部活動による指定校変更などで白中や東中に入学する子どもが多かったため、今年の福岡中の新入生は11人だった。再編で白中に統合されるという話が出ることで再編の前に人数が減りすぎるのではないか。【意見】

小中学生・高校生の主な意見

◆ 整備して欲しい施設・設備

※ 小：小学生 中：中学生 高：高校生

- ・季節や気候に関係なく1年中使用することができる屋内プールや温水プール、温水シャワー、清潔な更衣室。【小・中・高】
- ・怪我人への配慮や校内の移動を便利にするためのエレベーターやエスカレーター。【小・中・高】
- ・1人で静かにすごせるソファなどがあるフリースペースや仮眠室（休むところ）、ウォーターサーバーや自動販売機。【小・中】
- ・清潔なトイレ【小・中・高】、快適な図書室【中】。

◆ あったらいいと思う活動

- ・自分の好きなことを調べたり、勉強できる時間。【小・中・高】・自分の学びたいことや専門的な内容に取り組める時間。【中・高】
- ・自分のペースで学び直したり、逆に上の学年の内容を先取りしたりできる、学年に関係ない学習の時間。【中】
- ・学年を超えて関わる機会を増やすことができるイベントや、先輩から教わることができる勉強会。【高】
- ・動物とふれあう時間や、学校で小さな動物の飼育。・学校でのお昼寝タイム。【小】

◆ 学校や部活動のあり方について

- ・学校を選べるプラン（自分に合った学校を自由に選択できる仕組み）は良いと思う。【高】
- ・一定規模の（クラス替えができる）学校は、人間関係が広がって良いと思う。【高】
- ・現在の合同チームでの部活動は合同練習の機会が少なく、また合同練習の際は、遠方の練習場所への移動に時間がかかってしまう。【中】
- ・通学手段の確保と負担軽減（バスの本数の不足や遠距離通学への配慮）を図ってほしい。【高】